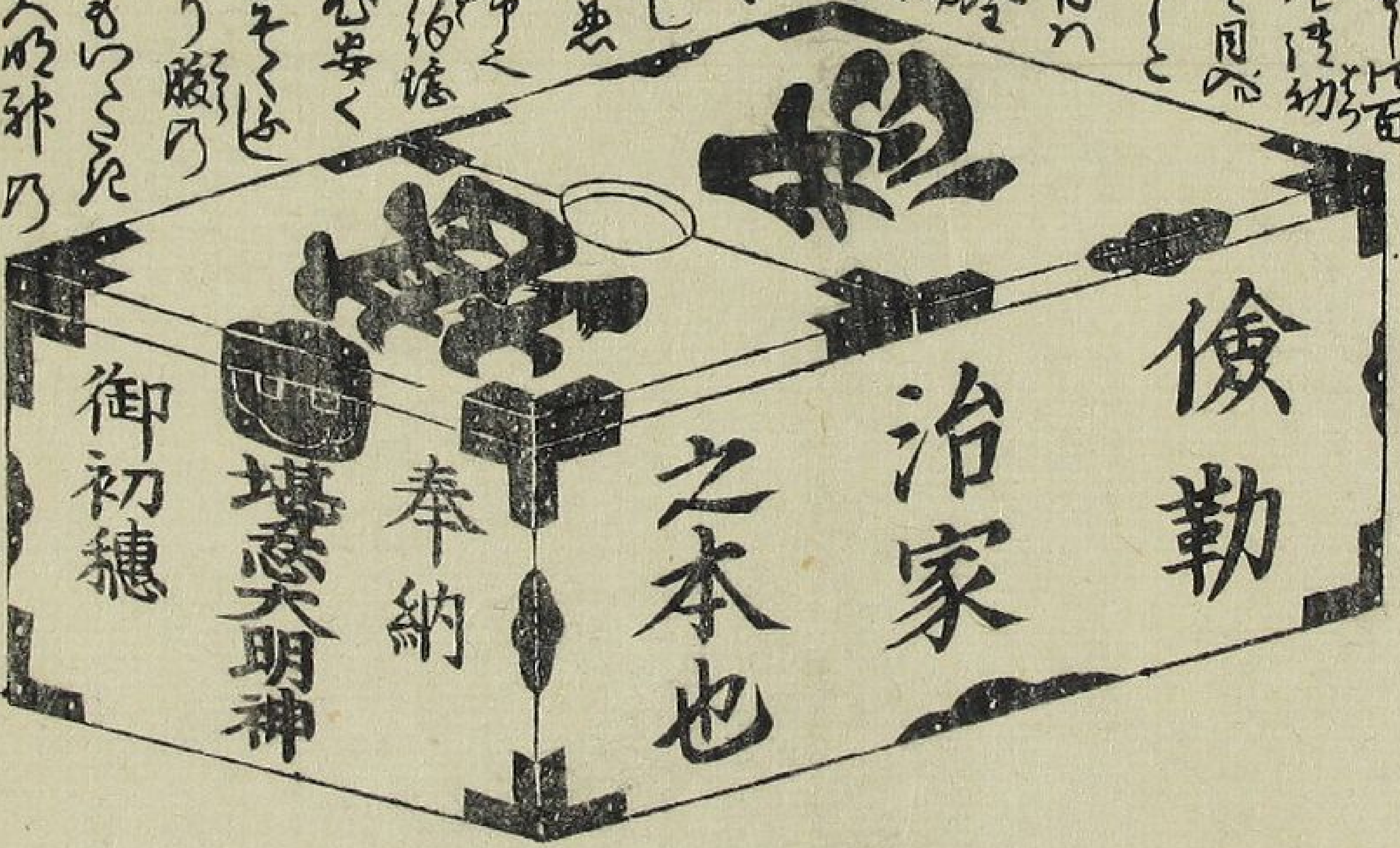
倹約堪忍箱

或所に世〻一家一門むつまじく家富栄へ暮せる人ありけり余りに珍しき事に思ひその家法を尋ぬれバ彼主こたへていふやう我家むつまじきハ堪忍大明神を信仰し堪忍箱といへる箱をこしらへ置たとへバ衣服百目にてこしらへんと思ふ時ハまづ八十目にてかんにんし残る廿目ハ此箱へ堪忍大明神の御初穂としてこれを入又振舞事にも五百目入るところならバいよく倹約として家事ハ堪忍し四百目て仕まひのこり百目を右の箱へ入て初穂植木又ハ普請買宅などの節も十貫目のところならバいよく八十分にかねぞめてもこと許ア通り堪忍して八貫目にてすまし二貫目ハのけおくべし兼てより箱の方堪忍して金銀二歩通りハ此箱へ入おきさて一家親類ハ不及近隣よりも困窮の人あらバ此初穂を出してすくひあたへる也かくしも身体の害にあふことなし又物入り多き年ハ此箱よりつかひ堪忍箱へ納め置たるもバハたまられハ繁昌のしるしすき家内ハ物入少しもなく衣服までも倹約堪忍して家業に精を出し商売も繁昌し作屋よく心安くくらしや家内の孫むすこまでも堪忍しておそくに高利の借金なども堪忍して如在なくらう勝のそれゆへハ中にも父は家業に精をだし死ぬるまでつとめ子孫も堪忍しゆへでおだやかに堪忍大明神の清めにてすて家内和合一門まんぞくにくらし我等信心の不学文盲ゆへぞ行時も堪忍大明神ゑ見そなはされてたちまちさずけ堪忍いたすより新まへ家の備ゆへもめでたく今のうけものもぞんじ中さびとかうてまもなるぞへいると死

何事も出ず堪忍のはこをとへ世〻おさまる家ぞ目出たき



書林
兼草紙屋（大坂心斎ばし北久宝寺町）塩屋喜兵衛板